

令和4年度

# 印西市民アカデミーだより

第16号

## 講座 16：歴史散策⑤本佐倉城跡他

12月23日(金)、今年最後の講座で本佐倉城跡(酒々井町・佐倉市)と印旛歴史民俗資料館を訪問しました。印西市師戸にある県立印旛沼公園は、本佐倉城の支城師戸城に整備されました。その時の発掘調査で掘り出された壺などが印旛歴史民俗資料館に展示されています。

千葉氏は、鎌倉・室町幕府のもとで下総を中心に一大勢力を張り代々「千葉介」と呼ばれ、下総守護職として関東有力大名のなかでも筆頭の地位にあった一族です。享徳3年(1454)に始まる古河公方と関東管領上杉氏が対立した享徳の大乱が関東全域に広がり、千葉氏もこの戦乱の中で内紛が起こり、本宗家が滅亡し、一族の岩橋輔胤が継承しました。この輔胤の子孝胤の時期(文明年間 1469～1487)に、千葉氏の本拠を鎌倉時代以来の千葉から佐倉(現在の酒々井町周辺)へ移し、新たに築城したのが本佐倉城です。その後、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原征伐において、千葉氏は後北条氏に味方し破れ滅亡し、これにより本佐倉城も廃城となりました。

本佐倉城は標高約36mの台地に築かれ、東西約700m、南北約800m、面積35万㎡におよぶ城域の中に10の郭をもつ巨大城郭です。北総台地の特徴である台地とその奥深くまで谷津が入る複雑に入り組んだ地形を利用し、台地を削り谷を埋め、空堀や土塁を巧みに配し郭を作った「土の城」です。

今回は、酒々井町ふるさとガイドの会にお願いして、本佐倉城跡を案内していただきました。見学コースは、国史跡本佐倉城跡案内所～東山馬場～東山～Ⅳ郭～城山～奥ノ山～倉跡～国史跡本佐倉城跡案内所の90分コースです。築城当時の建造物は残っていませんが、戦うために造られた戦国時代の城であったことがよくわかりました。あの時、後北条氏側について豊臣軍と戦っていなかったら、今頃この地は県庁所在地になっていたのかなぁなどと思いはせながら次の見学場所の印旛歴史民俗資料館に向かいました。本資料館は、印西市の民俗資料や古墳の発掘物、印旛沼で使われた漁労具や農具等が展示されています。アカデミー生にとっては、どれもこれも懐かしいものばかりでした。見学後、徒歩3分の距離にある泉福寺薬師堂(国指定重要文化財)を訪ねました。薬師堂は、和様と禅宗様の手法を取り入れた折衷様式の方三間堂で屋根は茅葺様造です。歴史を感じる建物です。



東山から印旛沼方面を望む



城山からの眺めも素晴らしい!



民俗資料館の展示物に興味津々



旧宗俊小学校裏手にある泉福寺薬師堂